



人口推計・大分県の全国順位

	全国平均	大分県	都道府県 順位
人口増減率	-0.44%	-1.00%	30位
自然増減率	-0.72%	-0.98%	30位
社会増減率	0.27%	-0.01%	26位

※総務省が14日に発表した人口推計より作成。
減少率の最も高かった都道府県が最下位

総務省が14日に公表した2024年10月1日時点の人口推計によると、大分県の人口は108万5千人で23年に比べて1.00%減少し、増減率を都道府県別に高い順から並べた順位は変わらず30位だった。減少幅は0.05万戸拡大した。

県人口増減率 全国30位

24年推計、総務省公表

減少率が1%以上だったのは東北や四国、中国、九州などの18県。増減率の全国平均はマイナス0・44%だった。

大分を含む23県は、出生と死亡の差を表す自然増減と、転入と転出の差を示す社会増減がいずれもマイナスだった。九州ではほかに佐賀、長崎、鹿児島が該当した。

全都道府県で自然減になった。減少率は全国平均の15歳未満の増減率

0・72%に対し、大分は0・98%で30位(九州3位)だった。

社会増減率は全国平均のプラス0・27%に対し、大分はマイナス0・01%で26位(同4位)だった。23年までは留学生、技能実習生ら外国人の増加などに伴い2年連続で社会増になったが、減少に転じた。九州で社会増だったのは福岡、熊本、宮崎の3県。

前年と変わらず

はマイナス3・0%で、23年に比べ0・2%下がった。全国平均のマイナス2・4%を上回るペースで減少が続く。一方、75歳以上はプラス3・0%増で、全国平均の3・5%増より低いものの、少子高齢化が進む実態が浮かんできた。

県おおいした創生推進課は「全国における大分県状況に大きな変動はなかった。首都圏への人口集中が続く。地方で少子高齢化が進む。県総合戦略に基づき、移住や定住、就職を支援し、35年に人口100万人の維持を目指す」と話した。

(吉良政宣)

都道府県の人口増減率と人口「増減率の順」

	人口増減率	人口(万人)
東 京	0.66%	1417.8
神 奈 川	0.01	733.2
大 阪	▲0.05	922.5
千 葉	▲0.07	875.7
沖 縄	▲0.08	625.1
福 岡	▲0.11	146.6
愛 知	▲0.21	509.2
滋 賀	▲0.23	746.0
京 都	▲0.32	140.2
兵 庫	▲0.60	252.0
群 馬	▲0.61	533.7
山 梨	▲0.62	189.0
茨 城	▲0.63	79.1
栃 木	▲0.64	280.6
熊 本	▲0.66	188.5
宮 城	▲0.69	169.7
福 井	▲0.73	224.8
静 岡	▲0.77	73.9
奈 良	▲0.80	352.7
岐 阜	▲0.80	128.5
佐 賀	▲0.81	191.6
長 崎	▲0.82	78.8
岡 山	▲0.84	198.7
廣 島	▲0.84	183.1
山 口	▲0.86	271.4
徳 島	▲0.89	103.3
香 川	▲0.93	91.7
三 重	▲0.94	171.1
海 道	▲0.97	504.3
北 海	▲1.00	99.7
富 山	▲1.00	109.8
石 川	▲1.00	108.5
大 分	▲1.00	108.5
鹿 児 島	▲1.10	153.2
鳥 取	▲1.16	53.1
島 根	▲1.16	64.2
岐 阜	▲1.21	125.2
愛 媛	▲1.22	127.6
山 口	▲1.26	128.1
新 潟	▲1.29	209.9
和 歌 山	▲1.34	88.0
山 梨	▲1.35	174.3
山 梨	▲1.36	68.5
山 梨	▲1.49	101.1
山 梨	▲1.56	65.6
山 梨	▲1.57	114.5
山 梨	▲1.66	116.5
山 梨	▲1.87	89.7
全 国	▲0.44%	1億2380.2

※2024年10月1日時点、人口増減率は前年比、▲はマイナス



〔問①〕 大分県の2024年10月1日時点の推計人口は何人ですか？

108万5千人

〔問②〕 大分県は2035年に人口100万人台の維持を目指すため、どのようなことに取り組む
としていますか？

移住や定住、就職支援など

〔問③〕 地方では少子高齢化が進む中、人口が減るとどのような影響が出るでしょうか。
あなたの考えを書いてみましょう。

自由記述